

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Smoking status as a clinical indicator for alcohol misuse in US adults. 米国成人におけるアルコール濫用の臨床指標としての喫煙状況	
執筆者	
McKee SA, Falba T, O'Malley SS, Sindelar J, O'Connor PG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Intern Med. 2007 Apr 9;167(7):716-21.	
キーワード	
喫煙、飲酒、アルコール濫用	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>プライマリケアにおける飲酒のスクリーニングは臨床ガイドラインで推奨されているが、喫煙のスクリーニングほどには行われていない。喫煙状況はプライマリケア等の現場ではアルコール濫用の同定に用いられうるが、全国データはない。本研究の目的は米国男性の全国サンプルにおいて、アルコール濫用の臨床指標としての喫煙状況について検討することであり、これらの行動の評価のための臨床ガイドラインに従って実施する。</p> <p>方法：</p> <p>分析はアルコールおよび関連状況に関する全国疫学調査 (Wave, 2001-2002) における米国成人 42,374 人において行った。オッズ比(OR)、95%信頼区間 (CI)、および検査指標 (喫煙行動 (毎日、時々、過去の喫煙) についての感度、特異度、陽性および陰性予測値、陽性尤度比) を、危険な飲酒行動およびアルコール関連疾患の発見のために検討した。評価はアルコール使用疾患および関連機能障害インタビュースケジュール-IV によった。</p> <p>結果：</p> <p>毎日喫煙者、時々喫煙者および過去喫煙者は、喫煙歴なしのものに比べて、危険飲酒者になるリスクが高かった (それぞれ OR 3.23 [95%CI 3.02-3.46]; OR 5.33 [95%CI 4.70-6.04]; OR 1.19 [95%CI 1.10-1.28])。毎日喫煙者、時々喫煙者はまた、アルコール関連疾患クライテリアに合致するリスクが高かった (それぞれ OR 3.52 [95%CI 3.19-3.90]; OR 5.39 [95%CI 4.60-6.31])。喫煙 (毎日および時々合計) による危険飲酒発見の感度は 42.5%、特異度は 81.9%、陽性予測値は 45.3% (集団全体では 26.1%)、陽性尤度比は 2.34 であった。喫煙によるアルコール関連疾患発見の感度は 51.4%、特異度 78.0%、陽性予測値 17.8% (集団全体では 8.5%)、陽性尤度比は 2.33 であった。</p> <p>結論：</p> <p>時々および毎日の喫煙者は、危険飲酒およびアルコール使用疾患のリスクが高かった。喫煙状況はアルコール濫用の臨床指標、あるいは、一般にアルコールに関するスクリーニングに利用可能である。</p>	